科目分類	専門科目群 専門科目	対象学年	1・2
授業科目	北東アジア専門講義1(アジアの中の日本思想史1)	学期	後期授業
担当教員	飯田泰三	選択／必修	選択必修
科目コード	H902201　授業形態　講義	単位数	2

授業の概要	明治初期の政治思想史を講ずる。1990年に私が北京日本学研究中心に出講したとき作成したレジュメを、参加メンバーに交代で音読してもらい、それに種々コメントを加えるというやり方で行う。
授業の内容	第1～2回　日本思想史学の歴史と思想史の方法　第3～4回　維新・啓蒙期の思想状況(1)　「維新革命の性質」と〝さまざまの維新〟　「文明開化」の光と影　第5～6回　維新・啓蒙期の思想状況(2)　「国家」Nation State と「文明」Civilization の創出　政治指導者と知識人　第7～8回　福沢諭吉の思想(1)　「一身独立して一国独立す」　「日本文明の由来」と「人民独立の気風」　第9～10回　福沢諭吉の思想(2)　「政権」と「私権」「民権」と人権」　「国権論」と「脱亜論」　第11回　自由民権期の思想状況　「士族民権」「豪農民権」「下流民権」　〝武士のエトス〟と「滅私奉公」　第12～13回　中江兆民の思想(1)　「洋学紳士君」と「東洋豪傑君」　「恩賜的民権と恢復的民権」　「憲法点閲」　第14～15回　中江兆民の思想(2)　〝res publica〟と「自治の俗」　「有限委任の法」と「社会契約」
テキスト	レジュメを配布
参考文献	
評価方法	平常点(参加・音読・質疑応答)
その他	※1 ※2

科目分類	専門科目群 専門科目	対象学年	1・2
授業科目	北東アジア専門講義2(日本政治思想史)	学期	前期授業
担当教員	飯田　泰三	選択／必修	選択必修
科目コード	H902238　授業形態　講義	単位数	2

授業の概要	私が編集し解題を書いた『丸山眞男講義録[第四冊]』を、参加メンバーに音読してもらい、それに種々コメントしていくというやり方で行う。
授業の内容	第1～2回　まえがき　1 東洋政治思想史講座の説明　2 「思想」とは何か　第3～5回　第1章 思考様式の原型　1 基盤　2 原型的世界像と価値体系　3 歴史像と世界観　第6～10回　第2章 古代王制のイデオロギー的形成　1 天皇の呪術的祭祀者としてのカリスマ　2 軍事的指導者としてのカリスマ　3 アマテラス(日神)カリスマ　4 血統カリスマ　5 血縁共同体の擬制　第11～12回　第3章 統治の倫理　1 儒教的世界観の介入　2 大化改新から律令制にいたる規範観念と「原型」との接合　第13～15回　第4章 王法と仏法　1 十七条憲法における統治の倫理　2 王法仏法相依と鎮護国家の観念　3 否定と解脱の論理と感情
テキスト	『丸山眞男講義録[第四冊]日本政治思想史 1964』(東京大学出版会)
参考文献	
評価方法	平常点(参加・音読・質疑応答)
その他	※1 ※2

科目分類	専門科目群 専門科目	対象学年	1・2
授業科目	北東アジア専門講義3(国際政治・安全保障研究)	学期	後期授業
担当教員	赤坂　一念	選択／必修	選択
科目コード	H902203　授業形態　講義	単位数	2

授業の概要

国際政治・安全保障の理論展開を、理念と現実の緊張関係に注目しながら取り上げる。とくに「安全保障の担い手は誰か」「何(誰)のための安全保障なのか」「どのような脅威・危険から守るのか」「どのように守るのか」といった視点から、「安全保障」を理論的、体系的に整理する。その視野としては、伝統的な安全保障観である国家に依拠した「国家の安全保障」論を踏まえた上で、ポスト冷戦期に入り脚光を浴びつつある新たな安全保障観である「人間の安全保障」にも光を当て、環境、食糧など、今日の市民社会を取り巻く安全保障問題について幅広く議論する。

授業の内容

本演習の進め方としては、表題どおりゼミナール形式とする。具体的には、毎回、担当教員による問題提起、質疑応答、ディスカッション、アドバイスを繰り返す。受講生の人数にもよるが、国際政治・安全保障に関する問題関心を深めるために、随時、文献講読、テーマ発表なども取り入れていきたい。

テキスト

本演習では特定のテキストの使用を想定していないが、各回のテーマに関連した参考文献を適宜紹介していきたい。

参考文献

本演習と問題関心が重なる日本語の文献として、さしあたり以下の文献を推奨したい。・防衛大学校安全保障学研究会編『安全保障学入門』(新訂第4版)亜紀書房、2009年。・防衛大学校安全保障学研究会編『安全保障のポイントがよくわかる本』亜紀書房、2007年。・赤根屋達雄・落合浩太郎『「新しい安全保障」論−人間・環境・経済・情報−』(増補改訂版)亜紀書房、2007年。・土佐弘之『安全保障という逆説』青土社、2003年。・土山實男『安全保障の国際政治学』(第2版)有斐閣、2014年。・山本武彦『安全保障政策−経世済民・新地政学・安全保障共同体−』日本経済評論社、2009年。・山本武彦編『国際安全保障の新展開−冷戦とその後−』早稲田大学出版部、1999年。・人間の安全保障委員会報告書『安全保障の今日的課題』朝日新聞社、2003年。・赤坂一念「ポスト冷戦期における日本の安全保障−国家・個人・地域の可能性−」宇野重昭編『北東アジア研究と開発研究』国際書院、2002年、449-66頁。

評価方法

成績評価については、平常点と最終レポートによって評価する。なお、この最終レポートは、受講生が自らの研究テーマにひきつけて設定して作成していくという方法をとりたい。

その他

※1
※2

科目分類	専門科目群 専門科目	対象学年	1・2
授業科目	北東アジア専門講義4（北東アジア比較思想）	学期	前期授業
担当教員	井上厚史	選択／必修	選択必修
科目コード	H902204　授業形態　講義	単位数	2

授業の概要

―『歴史のなかの「在日」』を読む― 2010年に韓国併合100周年を迎え、近代日韓関係に関する多くの出版物が刊行された。しかし、こうした国際関係に関する論点で議論される時、いつも欠落するのが在日韓国・朝鮮人問題である。彼らは韓国併合に先立ち、すでに多くの朝鮮人が日本に出稼ぎに来ていた。その多くが済州島出身者であったことも関係し、日韓関係における在日韓国・朝鮮人問題はマイナーな研究領域にとどまっている。こうした状況下で、2005年に出版された『歴史のなかの「在日」』（藤原書店）は、季刊『環』vol.11の特集「歴史のなかの「在日」」を単行本化したものであり、古代、近世、近代、そして現在・未来へと長い歴史的パースペクティヴにおいて「在日」の問題を広く深く扱い、在日韓国・朝鮮人問題研究の基本文献の一つである。本講義は、このテキストを丹念に読みながら、基本的概念の理解や研究史を押さえ、今後の在日韓国・朝鮮人研究について考えるものである。

授業の内容

＜毎回、論文を正確に読む＞という基本方針のもとに、議論を重ね、理解を深めるという方式で授業を進める。

第1回 オリエンテーション
第2回「1　歴史のなかの「在日」」（その1）
第3回「1　歴史のなかの「在日」」（その2）
第4回「2 「在日」百年のなかで」（その1）
第5回「2 「在日」百年のなかで」（その2）
第6回「2 「在日」百年のなかで」（その3）
第7回「3 「在日」へのまなざし」（その1）
第8回「3 「在日」へのまなざし」（その2）
第9回「3 「在日」へのまなざし」（その3）
第10回「4 「在日」の生活現場」（その1）
第11回「4 「在日」の生活現場」（その2）
第12回「5 「在日」の未来」（その1）
第13回「5 「在日」の未来」（その2）
第14回「5 「在日」の未来」（その3）
第15回 まとめと質疑応答

テキスト

『歴史のなかの「在日」』藤原書店、2005

参考文献

評価方法

授業の出席、および提出したレポート

その他

※1
※2

科目分類	専門科目群 専門科目	対象学年	1・2
授業科目	北東アジア専門講義5(北東アジア民族関係)	学期	後期授業
担当教員	井上　治	選択／必修	選択必修
科目コード	H902205　授業形態　講義	単位数	2

授業の概要	今年度は、多民族国家である中国のイスラム系諸民族中の少数民族の創出と現状について、イスラム系多数派民族の回族や中国の多数派民族である漢族との関係に着目しつつ考察したい。具体的には、東郷族や保安族に関する論著を講読する形式で授業を進める。受講生は、宗教と集団形成過程などによって個別の民族名称を付された中国人の、異質性と同質性に配慮しながら、少数民族中国人の歴史と文化、社会について考えることができるようになることが期待できる。
授業の内容	特に進度は設定しない。指定した論著の要約をレジュメにまとめることを求める。
テキスト	受講生各自が関連する論著を選択して購読することを求める予定である。
参考文献	楊海英『モンゴルとイスラーム的中国』(文春学藝ライブラリー、2014)。
評価方法	出席50%、課題(レジュメ)50%
その他	※1 ※2

科目分類	専門科目群 専門科目	対象学年	1・2
授業科目	北東アジア専門講義6（比較宗教文化論）	学期	後期授業
担当教員	大前　太	選択／必修	選択
科目コード	H902206　授業形態　講義	単位数	2

授業の概要

【授業の目的】アジア諸地域は様々な宗教を生み出してきたが、同時に域外の宗教を受容することによって独自の宗教文化を創り上げている。本講義は、特に東アジア地域に重点を置いて、域外の諸宗教（仏教、キリスト教、イスラーム）の伝播と受容の経緯を明らかにし、この地域における諸宗教の独特の「かたち」について分析することを目的とする。併せて諸宗教の共生の可能性について議論する。【授業の概要】アジアにおける諸宗教の受容という観点から、仏教、キリスト教、イスラームの比較を行う。一方的な授業とならないよう、受講生との間で討論を行う。【到達目標】・東アジア地域がどのようにして域外の宗教を受容し、独自の宗教文化を創り上げてきたか説明できる。（知識／理解）・諸宗教の共生の可能性について自己の見解を述べることができる。（論理的思考）

授業の内容

第1回 東アジアの宗教
第2回 東アジアの宗教
第3回 東アジアの宗教
第4回 東アジアにおける仏教の伝播と受容
第5回 東アジアにおける仏教の伝播と受容
第6回 東アジアにおける仏教の伝播と受容
第7回 東アジアにおける仏教の伝播と受容
第8回 東アジアにおけるキリスト教の伝播と受容
第9回 東アジアにおけるキリスト教の伝播と受容
第10回 東アジアにおけるキリスト教の伝播と受容
第11回 東アジアにおけるイスラームの伝播と受容
第12回 東アジアにおけるイスラームの伝播と受容
第13回 東アジアにおけるイスラームの伝播と受容
第14回 諸宗教の共生の可能性
第15回 諸宗教の共生の可能性

テキスト　プリント配布

参考文献　授業中に紹介する。

評価方法　平常点（授業での討論）30%、最終レポート70%の割合で到達目標の達成度を評価する。

その他

※1
※2

科目分類	専門科目群 専門科目	対象学年	1・2
授業科目	北東アジア専門講義7(国際環境政治)	学期	後期授業
担当教員	沖村 理史 (Tadashi OKIMURA)	選択／必修	選択必修
科目コード	H902207　授業形態　講義	単位数	2

授業の概要

北東アジア地域における代表的な環境問題、とくに越境環境問題や地球環境問題を取り上げ、その現状と原因としての社会経済システムを検討し、その上で、解決に向けた対策と国際的取組みについて検討する。受講生には、わが国をも巻き込む北東アジア地域の環境問題の現状とその原因の所在を把握し、それに対応を試みる国際社会の動きを理解することが求められる。

授業の内容

本講義では、まずは環境問題と環境政策の現状を理解するために必要な概論を説明する。その上で、演習を通じ、様々な地球環境問題がどのように展開しているのか、また各問題について、どのような視点と対応策がありえるのか、といった点について検討する。さらには、受講生の関心に応じた環境問題を取り上げ、個別の事例についての講義、又は演習を行なう。【講義】1. 環境問題の構図:大量生産・大量破壊・大量廃棄社会 2. 環境政策の形成と変遷 3. 地球環境問題とその対応【討論】1. 地球環境問題を巡るさまざまな視点 前半は講義形式で、後半はテキストを中心に受講生の討論も含めた形で講義を進める。どの環境問題を取り上げるかは、受講生の問題関心に基づき決定する。

テキスト

Thomas A. Easton, Taking Sides: Clashing Views on Environmental Issues, 16th ed., McGraw-Hill/Dushkin, 2015, の予定だが、受講生の意向を聞いて変更することもあり得る。

参考文献

太田宏『主要国の環境とエネルギーをめぐる比較政治』東信堂、2015年。松岡俊二編『アジアの環境ガバナンス』勁草書房、2013年。森晶寿編『東アジアの環境政策』昭和堂、2012年。藪下史郎監修、吉野孝、弦間正彦編『東アジア統合の政治経済・環境協力』東洋経済新報社、2011年。ジェニファー・クラップ、ピーター・ドーヴァーニュ、仲野修訳『地球環境の政治経済学—グリーンワールドへの道—』法律文化社、2008年。寺西俊一ほか編『地球環境保全への途ーアジアからのメッセージ』有斐閣、2006年。

評価方法

授業での討論への参加、期末レポートなどに基づいて評価する。

その他

※1
※2

科目分類	専門科目群 専門科目	対象学年	1・2
授業科目	北東アジア専門講義8（北東アジア経済研究）	学期	後期授業
担当教員	張忠任	選択／必修	選択必修
科目コード	H902208　授業形態　講義	単位数	2

授業の概要

現代北東アジア経済の発展をもたらす内的、外的諸条件を検討し、諸国間や自治体間の経済関係を分析する。具体的には、戦後の北東アジア経済の変化、各国の経済発展戦略、財政を中心に経済制度の比較研究を行う。また、日・中・韓間の経済協力（環日本海経済圏と日・中・韓3国間のFTA問題を中心に）や貿易関係を考察する。受講生には紹介される事例の分析を通じて有効なアプローチや理論を発見し、今後の北東アジア地域にふさわしい未来志向の経済関係を構想することが求められる。

授業の内容

第1回 イントロダクション
第2回「方法論としての北東アジア」について
第3回 北東アジアにおける資源と産業の相互補完性
第4回 北東アジアの水資源
第5回 北東アジアの交通条件（特に鉄道と港）
第6回 日本海における中国、ロシア、韓国、北朝鮮間の航路
第7回 北東アジアにおける国際貿易の現状と問題点
第8回 北東アジア諸国間のFDI
第9回 図們江開発計画の目標と主要開発モデル1
第10回 図們江開発計画の目標と主要開発モデル2
第11回 中国のニュー・ノーマルとサプライサイド改革
第12回 日中韓とASEANの経済関係
第13回 東アジア共同体問題について
第14回 北東アジア開発に関する研究課題と展望
第15回 総括

テキスト

特定の教科書は用いない。必要に応じてプリントを配布する。最初の講義にて参考文献を解説する。

参考文献

張 忠任「環日本海経済圏における諸問題とその対策」『中国と東アジア』No.35（1995.3）張 忠任「環日本海経済圏：回顧と展望」『環日本海研究』第4号（1998.9）坂田幹男『北東アジア経済論』ミネルヴァ書房、2001年 環日本海経済研究所『北東アジア経済白書 21世紀のフロンティア（2000年版）』毎日新聞社、2000年

評価方法

レポート2回とするが、レポートに出席を加味して評価する。出席状況の悪いもの（70%以下）は不可になることを覚悟すること。

その他

※1
※2

科目分類	専門科目群 専門科目	対象学年	1・2
授業科目	北東アジア専門講義9(北東アジア比較文化)	学期	前期授業
担当教員	陳仲奇	選択／必修	選択必修
科目コード	H902209　授業形態　講義	単位数	2

授業の概要	北東アジア地域文化を基本的視座として、中国歴代の学術思想の変容を考える。この授業では、中国儒家、道家、道教などの天命論思想源流、中国五・四運動以来の近現代出版文化、演劇文化などをメインテーマとして取り上げ、中国伝統文化がいかにして外来文明との共生と融合をはかってきたかを明らかにする。
授業の内容	この授業の内容は中国学術思想史にとって幾つかの重要問題を提起して講義にする予定である。たとえば、先秦諸子の天命論、道家の無為から道教の神仙思想への変容、五・四新文化運動における中国伝統文化に対する批判・整理・再構築、近代中国新文化建設における胡適・魯迅・顧頡剛らの役割、中国共産党の延安整風運動における知識人の改造政策、近現代地方劇の整理出版と中国共産党の文芸政策、新中国成立以後の古籍整理出版事業などのテーマを想定している。
テキスト	毎回の講義はプリントを配布する予定。
参考文献	各回の講義に関連する参考文献はその都度に紹介する。
評価方法	成績評価は平常点と最終レポートによって評価する。最終レポートは受講生が各回の講義の中から自分の興味があったものを一つ選んで、自ら研究テーマを設定して作成して行く方法をとりたい。3000字を目途に作成してください。
その他	受講生は毎回の授業に主体的に参加し、積極的に質疑・討論を期待している。 ※1 ※2

科目分類	専門科目群 専門科目	対象学年	1・2
授業科目	北東アジア専門講義10(日中関係)	学期	後期授業
担当教員	別枝行夫	選択／必修	選択必修
科目コード	H902210　授業形態　講義	単位数	2

授業の概要

19世紀末から今日まで約120年間にわたる日本と中国の関係を考える。1945年までについては担当教員による講義形式をとり、テキストを活用しながら概説を行う。1945年以降は受講する学生の分担報告形式をとり、皆で討論する。受講生の日中関係に関する知識の濃淡に応じて講義部分に当てる時間を調整する予定である。＜授業概要＞ 1)19世紀末～1930年までの日本と中国 2)「日中戦争」期の日本と中国 3)旧・満洲国と中国・日本 4)新中国建国と日本 5)戦後日中関係-1(1949～1964年) 6)　-2 文化大革命と日本 7)　-3 日中国交正常化 8)　-4 経済関係の深化 9)　-5 政治関係の対立 10)　-6 中国新時代と日本 11)　-7 世界の中の日本と中国 12)以降　大学院生による報告(第5回～第11回までの内容について)

授業の内容

第1回 イントロダクション:授業の進め方
第2回 19世紀末～1930年までの日本と中国(1)
第3回 同上(2)
第4回 「日中戦争」期の日本と中国
第5回 旧・満洲国と中国・日本
第6回 新中国建国と日本
第7回 戦後日中関係-1(1949～1964年)
第8回 戦後日中関係-2　文化大革命と日本
第9回 戦後日中関係-3　日中国交正常化
第10回 戦後日中関係-4　経済関係の深化
第11回 戦後日中関係-5　政治関係の対立
第12回 戦後日中関係-6　中国新時代と日本
第13回 戦後日中関係-7　世界の中の日本と中国
第14回 大学院生による報告(これまで取り上げた内容について)－1
第15回 実施できる場合は「同上－2」

テキスト

・大杉一雄『日中十五年戦争史』(中公新書) ・毛里和子『日中関係』(岩波新書)

参考文献

・国分良成『中華人民共和国』(ちくま新書) ・劉　傑『中国人の歴史観』(文春新書) ・天児　慧『中華人民共和国史』(岩波新書) 上記以外は授業で指示する。

評価方法

毎回の報告状況と討論の程度によって評価する。授業に欠席しないことを前提とする。

その他

※1
※2

科目分類	専門科目群 専門科目	対象学年	1・2
授業科目	北東アジア専門講義11(平和学)	学期	前期授業
担当教員	濵田泰弘	選択／必修	選択必修
科目コード	H902211　授業形態　講義	単位数	2

授業の概要

平和学は希望の学問である。エラスムス、そしてルソー、カントの時代にその端緒が開かれ、特に20世紀後半の冷戦の時代、核戦争の脅威が現実に迫る中で、平和学が形成された。戦争と革命の時代(カール・シュミット)20世紀末、東西冷戦が終焉を遂げ、冷戦期核戦争の脅威は消え去ったが核拡散が続き、その脅威は21世紀にも未だ払拭されていない。21世紀は9.11同時多発テロで幕を開いた。新たなテロリズムの脅威が今日など続いている。さらに3.11以降の原子力エネルギー安全神話の終焉により、核の平和利用の道も危険視されている。ウルリッヒ・ベック「リスク時代」に人間の安全保障と平和構築に向けて処方を講じる必要がある。20世紀の二つの大戦の追憶と戦争責任問題も現在の国際社会に深い淵を残している。ガルトウングの積極的平和やアマルティア・センの「人間の安全保障」を講じながら、テロや原子力発電所事故の新たな人為的リスクも視野に入れ平和の意義を問い直すことが現在問われている。特に専門であるナチズムの過去やホロコーストの戦争責任を克服する政治学的な方法論をドイツの歩みから考える歴史学的、思想的な学習、欧米の平和学のテキスト、日本の文脈から講じる現実的な外交策等を講じていきたい。21世紀今日なお人類は平和を実現したとは言い難い。そこにまだ平和学の可能性が残されている。このように考えれば危機の時代の産物たる平和学は逆に希望を問う学問である。【到達目標】　大学院修士課程に相応しい政治学、平和学の知識を習得し、討論のスキルを磨き、学会を視野に入れた研究報告の練習、そして修士論文の完成、さらに学位論文研究計画の指導を行う。大学とは異なり、自ら資料や研究テーマを開拓し、テーマを決定することと自立した学習方法を身につけることが重要である。

授業の内容

毎回、基本的に出席者に課題を課し、大学院生のレジュメ報告をもとに講義を進めていく予定である。課題としてレポート等を課す予定。 1.ガイダンス　イントロダクション 2.丸山真男「超国家主義の論理と心理」 3.トーマス・マン「ドイツとドイツ人」、『ドイツとドイツ人』講演集 4.R.v.Weizsäcker,Vierzig Jahre danach　,R,v.ヴァイツゼッカー『荒野の40年』 5.ヨハン・ガルトウング『構造的暴力と平和』1 6.ヨハン・ガルトウング『構造的暴力と平和』2 7. アマルティア・セン『人間の安全保障』1 8.アマルティア・セン『人間の安全保障』2 9.Jean Jacques Rousseau,Extrait du Projet de paix perpétuelle de Monsieur l'Abbé de Saint-Pierre「サン＝ピエール師の永久平和論抜粋」 10.Imaanuelle Kant.Zum　Ewigen Frieden, I・カント『啓蒙とは何か・永遠平和のために』 11.M. ウオルツァー『正しい戦争と不正な戦争』(テロをめぐる数章)講 12.村瀬興雄『ナチズム—ドイツ保守主義の一系譜』1 13.村瀬興雄『ナチズム—ドイツ保守主義の一系譜』2 14.ヤスパース『戦争の罪を問う』 15. まとめ　総括

テキスト

丸山真男「超国家主義の論理と心理」『現代政治の思想と行動』、アマルティア・セン『人間の安全保障』、トーマス・マン『ドイツとドイツ人』、ヴァイツゼッカー『荒野の40年』、ヤスパース『戦争の罪を問う』、、I・カント『永遠平和のために』、村瀬興雄『ナチズム—ドイツ保守主義の一系譜』、山口定『ファシズム』、ヨハン・ガルトゥング『構造的暴力と平和』、ルソー「サン＝ピエール師の永久平和論抜粋」『ルソー全集9巻』その他

参考文献

ウルリッヒ・ベック『危険社会』、本田宏・若尾祐司『反核から脱原発へ』 アドルノ/ホルクハイマー『啓蒙の弁証法』、トーマス・ニッパーダイ『ドイツ史を考える』、ヴォルフガング・ヴィッパーマン『議論された過去—ナチズムに関する事実と論争』、I・カント『永遠平和のために』、林健太郎『ワイマル共和国—ヒトラーを出現させたもの 』、山口定『ファシズム』、細見和之『フランクフルト学派』、アドルノ/ホルクハイマー『啓蒙の弁証法』、藤田省三『天皇制国家の支配原理』、ジョセフ・ナイ『国際紛争 —理論と歴史』、林健太郎『ワイマル共和国—ヒトラーを出現させたもの 』、ハンナ・アーレント『全体主義の起源』

評価方法

出席等の平常点、レポートや研究報告等の課題で総合評価する。

その他

シラバス内容は戦争責任やドイツ政治思想を一つの切り口として考察する広義の平和学的関心に基づくものであるが、受講生に関心に応じてテーマやテキスト、進度を選ぶ。独語、仏語文献は翻訳を主に使用し、可能な資料はコピーを配布する。
※1

科目分類	専門科目群 専門科目	対象学年	1・2
授業科目	北東アジア専門講義12(北東アジア国際関係史)	学期	後期授業
担当教員	李暁東	選択／必修	選択必修
科目コード	H902212 授業形態 講義	単位数	2

授業の概要	近代北東アジア地域は、「万国公法」(国際法)に象徴される近代国家システムの受容と、中華世界システムの崩壊の過程にあり、この時期の国際関係はすなわちこの二つの世界観がぶつかり合ったなかで展開されたものであった。そして、展開の過程で、北東アジア地域は「ウェスタン・インパクト」に強く影響された一方、この地域における諸国の政治、文化によって左右されていた。本演習は以上のような「新・旧」と「内・外」の視点からこの時期の北東アジア国際関係史をとらえる。
授業の内容	参考文献を中心に報告をしみんなで討論するという形でゼミを進めていく。特に歴史的な観点から中国や、日本、朝鮮半島など、異なった視角から現代に資する北東アジア地域の国際関係史を考えていきたい。
テキスト	
参考文献	福澤諭吉『文明論の概略』 中江兆民『三酔人経綸問答』 陸奥宗光『けんけん録』 松澤弘陽『近代日本の形成と西洋経験』岩波書店、1993年 坂野正高『近代中国外交史研究』岩波書店、1970年 浜下武志『近代中国の国際的契機—朝貢貿易システムと近代アジア』東大、1990年 佐藤慎一『近代中国の知識人と文明』東京大学出版会、1996年 野村浩一『近代日本の中国認識』 宇野重昭編『深まる侵略　屈折する抵抗－一九三〇年—四〇年代の日・中のはざま』研文出版、2001年 藤田雄二『アジアにおける文明の対抗—攘夷論と守旧論に関する日本、朝鮮、中国の比較研究』御茶ノ水書房、2001年
評価方法	演習への姿勢、期末小論文などによっておこなう。
その他	※1 ※2

科目分類	専門科目群 専門科目	対象学年	1・2
授業科目	北東アジア専門講義１３（北東アジア比較政治）	学期	前期授業
担当教員	江口伸吾	選択／必修	選択必修
科目コード	H902213　授業形態　講義	単位数	2

授業の概要

近年、北東アジアをめぐる国際環境は大きな変化に晒されている。中国と台湾、朝鮮半島のそれぞれの分断状況といった冷戦構造が続く一方、グローバリゼーションによって市場経済化が進み、北東アジア諸国の政治社会の変化も激しくなった。たとえば、中国においては、1978年の改革開放政策への転換、並びに1992年の社会主義市場経済体制への移行により市場経済化が進み、その結果、急速な経済成長を達成して、2010年には世界第2位の経済大国になった。他方、都市と農村、東部沿海地域と内陸部との経済・社会格差ももたらし、これらを解決するための政策論議が盛んとなった。このような問題をもたらしたグローバリゼーションは、中国ばかりでなく、日本をはじめとする他の北東アジア諸国にも同様の影響を与えている。　本講義では、以上のような問題関心にもとづき、グローバリゼーションという国際契機に着目しながら、それが政治体制、政治社会にもたらす影響を考察することを目的とする。とくに、現代中国の政治社会の変化を事例としてとりあげながら、同様の課題を担う他の北東アジア諸国と比較考察するための一つの視座を培っていきたい。【到達目標】・本講義では、北東アジアにおける政治変動の過程を論理的に思考・分析できる。

授業の内容

第1回イントロダクション 第2～6回北東アジアの政治社会をめぐって 第7～15回現代中国の政治・政治社会の変化とその論争点をめぐって

テキスト

とくに指定はありません。

参考文献

参考文献については、授業の際、随時紹介します。尚、基礎的な文献としては、下記のものがあげられます。・アジア政経学会監修『現代アジア研究』(全3巻)(慶應義塾大学出版会、2008年)・宇野重昭・江口伸吾・李暁東編『中国式発展の独自性と普遍性ー「中国模式」の提起をめぐってー』(国際書院、2016年)・高原明生・前田宏子『シリーズ中国近現代史5／開発主義の時代へ1972-2014』(岩波書店、2014年)・高原明生・服部龍二編『日中関係史1972-2012 Ⅰ政治』(東京大学出版会、2012年)・中園和仁編著『Minervaグローバル・スタディーズ3／中国がつくる国際秩序』(ミネルヴァ書房、2013年)・菱田雅晴編著『中国共産党のサバイバル戦略』(三和書籍、2012年)

評価方法

成績評価は、出席・レポートの実施を通して、総合的に評価を行います。

その他

※1
※2

科目分類	専門科目群 専門科目	対象学年	1・2
授業科目	北東アジア専門講義14（近代政治原理成立史）	学期	前期授業
担当教員	加藤　節	選択／必修	選択必修
科目コード	H902237　授業形態　講義	単位数	2

授業の概要	この授業は、ヨーロッパ近代における政治原理の成立史を辿るとともに、その歴史を構成する作品を読むことによって、近代政治原理を歴史的＝理論的に理解することを目的とします。（概要）以上の目的を達成するために、前半では近代政治原理成立史に関する講義を行い、後半で、もっとも典型的な近代政治原理を確立したジョン・ロックの作品を講読することにします。
授業の内容	（構成）前半 「近代政治原理成立史」第1回　近代政治原理の諸前提 第2回　原理形成の諸段階 第3回　人間と文化—ホッブスの場合 第4回　人間と文化-ロックの場合 第5回　人間と文化—ルソーの場合 第6回　遺産と現代 後半（第7回—第15回） ジョン・ロック『統治二論後篇』・『寛容についての手紙』の講読
テキスト	ジョン・ロック『統治二論』（加藤　節訳、岩波文庫）・ジョン・ロック『寛容についての手紙』（加藤　節・李静和訳、岩波文庫）
参考文献	特になし
評価方法	出席およびレポートにより評価を行う。
その他	※1 ※2

科目分類	専門科目群 専門科目	対象学年	1・2
授業科目	北東アジア専門講義15(国際関係)	学期	後期授業
担当教員	佐藤壮	選択／必修	選択必修
科目コード	H902215 授業形態 講義	単位数	2

授業の概要

【講義の概要と目的】 この講義は、大学院生に国際関係論(International Relations: IR)・国際政治学の理論的パラダムや論争を紹介するとともに、社会科学の方法論に関する基礎的な論争を概観することにより、受講生が理論と方法論について習熟し、それらの有効性を批判的に評価できるようになることを目指す。このため、国際関係論の代表的な文献や方法論に関する文献を通じて、理論的・方法論的論争の概略を提示する。【到達目標】・リアリズム、リベラリズム、コンストラクティヴィズムなどの理論的アプローチの特徴と、諸理論間の論争における争点が理解できる。・国際関係論・国際政治学の主要な分析概念を定義できる。・社会科学の方法論を理解し、自らの研究で用いる研究手法を方法論のなかに位置づけることができる。

授業の内容

【講義の進め方】 毎回講義の冒頭で講義担当者が理論およびテーマに関する概説をおこなった後、受講生同士の討論に移る。受講生は文献に関する疑問や論点を提示し、議論をリードすることが期待される。講義内容や計画に関して、受講生の希望や研究課題に応じて、適宜変更することがある。

第1回 1.導入:講義のねらい、講義の進め方のガイダンス(以下、テーマの後に挙げた参考文献から必読文献を選定する。受講生の研究課題や関心にあわせて各回のテーマや文献を変更することがある。)
第2回 2.国際関係の理論とは何か山本吉宣.2008.『国際レジームとガバナンス』有斐閣、序章. Walt, Stephan M.1998. International Relations: One World, Many Theories. Foreign Policy, No. 110. pp. 29-46. 中西寛.2009.「国際政治理論」日本国際政治学会編『日本の国際政治学1』有斐閣.
第3回 3.地域としてのアジア毛里和子.2010.「地域研究と国際関係学のあいだ—中国研究の立場から」山本武彦編『国際関係論のニュー・フロンティア』成文堂. Katzenstein, Peter J.2002. Area Studies, Regional Studies, and International Relations. Journal of East Asian Studies 2(1). Reprinted in Shaun Breslin and Richard Higgott eds.2010.International Relations of the Asia-Pacific, Volume I, Sage. Pempel, T. J. ed. 2005. Remapping East Asia: The Construction of a Region. Cornell University Press.
第4回 4.社会科学における「説明」保城広至.2015.『歴史から理論を創造する方法—社会科学と歴史学を統合する』勁草書房、第2章.
第5回 5.国際政治学における理論と実証川崎剛.2015.『社会科学としての日本外交研究』ミネルヴァ書房、序章、第1章.
第6回 6.事例選択の方法保城広至.2015.『歴史から理論を創造する方法—社会科学と歴史学を統合する』勁草書房、第4章.
第7回 7.定性的分析の方法川崎剛.2015.『社会科学としての日本外交研究』ミネルヴァ書房、第2章.
第8回 8.研究のデザイン(1)アレキサンダー・ジョージ、アンドリュー・ベネット.2013.『社会科学のケース・スタディ—理論形成のための定性的手法』勁草書房、第3章、第4章.
第9回 9.研究のデザイン(2)アレキサンダー・ジョージ、アンドリュー・ベネット.2013.『社会科学のケース・スタディ—理論形成のための定性的手法』勁草書房、第5章.
第10回 10.研究のデザイン(3)アレキサンダー・ジョージ、アンドリュー・ベネット.2013.『社会科学のケース・スタディ—理論形成のための定性的手法』勁草書房、第6章.
第11回 11.因果的推論のための定性的分析(1)ヘンリー・ブレイディ、デヴィッド・コリアー.2014.『社会科学の方法論争—多様な分析道具と共通の基準[原著第2版]』勁草書房、第10章.
第12回 12.因果的推論のための定性的分析(2)ヘンリー・ブレイディ、デヴィッド・コリアー.2014.『社会科学の方法論争—多様な分析道具と共通の基準[原著第2版]』勁草書房、第11 章.
第13回 13.因果的推論のための定性的分析(3)ヘンリー・ブレイディ、デヴィッド・コリアー.2014.『社会科学の方法論争—多様な分析道具と共通の基準[原著第2版]』勁草書房、第12章.
第14回 14.受講生研究発表
第15回 15.受講生研究発表

テキスト	と。
参考文献	必読文献で示したもののほか、適宜紹介する。
評価方法	【単位修得要件】・講義中の討論への積極的参加(20%)・必読文献に関する報告(20%)・期末ペーパー(60%)
その他	※1 ※2

科目名：北東アジア専門講義１６（北東アジア比較社会論）
担当教員名：山本健三

授業の概要	本講義では、北東アジア各国における社会の形成過程とそれに関する言説について検討する。とりわけ、北東アジアという空間を織り成す人・物・情報の〈移動〉に着目する。そしてこの〈移動〉が地域と人々の意識に及ぼす影響を検討し、北東アジアの社会構造とイデオロギーの特徴を理解するための視座を獲得することを目的とする。 【到達目標】 • 北東アジア社会の特徴を理解し、論理的に説明できる。 • 北東アジアの歴史と国際関係に関する言説に関して、批判的に考察できる。
授業の内容	この授業は、テキストを読み、ディスカッションするという演習方式で進める。毎回、受講生が持ち回りでレジュメを作成し、それに基づいて議論を行う。今期はテキスト欄に挙げた三冊を予定している。ただし、受講生の研究テーマや関心に応じて、変更することもあり得る。進度は特に定めない。
テキスト	• デビッド・ウルフ（半谷史郎訳）『ハルビン駅へ』講談社、2014 年。 • Michael Keevak, *Becoming Yellow: A Short History of Racial Thinking* (Princeton and Oxford: Princeton University Press, 2011). • Sho Konishi, *Anarchist Modernity: Cooperation and Japanese-Russian Intellectual Relations in Modern Japan* (Cambridge and London: Harvard University Asia Center, 2013).
参考文献	• Rogers Brubaker, *Nationalism Reframed* (Cambridge: Cambridge University Press, 1996). • Iver B. Neumann, *Uses of the Other: "The East" in European Identity Formation* (Minneapolis: University of Minnesota Press, 1999). • 植村邦彦『アジアは〈アジア的〉か』ナカニシヤ出版、2006 年。 • 梅森直之『初期社会主義の地形学：大杉栄とその時代』有志舎、2016 年。 • 山本健三『帝国・〈陰謀〉・ナショナリズム：「国民」統合過程のロシア社会とバルト・ドイツ人』法政大学出版局、2016 年。 • ベネディクト・アンダーソン『三つの旗のもとに：アナーキズムと反植民地的想像力』NTT 出版、2012 年。 参考文献は、授業でも適宜紹介する。
評価方法	平常点（出席・質疑応答）50%、課題レポート 50%。
その他	

科目分類	専門科目群 専門科目	対象学年	1・2
授業科目	北東アジア専門講義17(北東アジア近現代史)	学期	前期授業
担当教員	福原裕二	選択／必修	選択必修
科目コード	H902217　授業形態　講義	単位数	2

授業の概要

現在の北東アジア地域とは不即不離の関係にある大日本帝国の侵略と統治下におかれた地域である中国東北地方、朝鮮半島の近現代の歴史を軸にして、この地域をめぐる国際関係史にも論及する。受講生には、近現代史の知識は地域研究のための土台であることを十分に理解し、偏りのない歴史を学んでおくことが求められる。

授業の内容

テキストを適宜利用しつつ、近現代の北東アジア(政治・外交)史について講義する。そこでは、中国・朝鮮半島・日本を中心とする北東アジア地域内アクターと列強との相互関係史を軸にしつつも、より地域内アクターの内在的な行態の把握と、それらの主体的行動が国際関係に与えたインパクトに関して注視するような観点を確立したい。また、講義を通じて、近現代の北東アジア(政治・外交)史を日本の視点の省察をもとに捉え直すことを試みたい。なお、聴講生には、講義毎にテキスト要約あるいはディスカッションペーパーの提出を求める予定にしている。

第1回 イントロダクション:北東アジア近現代史を学ぶ意義(第1章:朝鮮半島を「理解」するとはどういうことか[福原裕二『北東アジアと朝鮮半島研究』国際書院、2015年所収])
第2回 第1講:北東アジアの近代Ⅰ(第1章:東アジアと近代[上原一慶ほか著『東アジア近現代史〔新版〕』有斐閣、2015年所収]および第1章:東アジアの近代ー19世紀[和田春樹ほか著『東アジア近現代通史 上 19世紀から現在まで』岩波書店、2014年所収]
第3回 第2講:北東アジアの近代ⅡⅠ(第1章:東アジアと近代[上原一慶ほか著『東アジア近現代史〔新版〕』有斐閣、2015年所収]および第1章:東アジアの近代ー19世紀[和田春樹ほか著『東アジア近現代通史 上 19世紀から現在まで』岩波書店、2014年所収]
第4回 第3講:第一次世界大戦と北東アジアⅠ(第2章:第一次世界大戦と東アジア[上原一慶ほか著『東アジア近現代史〔新版〕』有斐閣、2015年所収]
第5回 第4講:第一次世界大戦と北東アジアⅡ(第2章:第一次世界大戦と東アジア[上原一慶ほか著『東アジア近現代史〔新版〕』有斐閣、2015年所収]
第6回 第5講:第二次世界大戦と北東アジアⅠ(第3章:第二次世界大戦と東アジア[上原一慶ほか著『東アジア近現代史〔新版〕』有斐閣、2015年所収]
第7回 第6講:第二次世界大戦と北東アジアⅡ(第3章:第二次世界大戦と東アジア[上原一慶ほか著『東アジア近現代史〔新版〕』有斐閣、2015年所収]
第8回 第7講(小結的議論):近代北東アジア国際関係史をめぐる争点と教訓
第9回 第8講:冷戦体制の形成と北東アジア(第4章:戦後冷戦体制の形成と「独立と革命」[上原一慶ほか著『東アジア近現代史〔新版〕』有斐閣、2015年所収])
第10回 第9講:ベトナム戦争の時代と北東アジア(第5章:戦後体制=冷戦構造の再編成[上原一慶ほか著『東アジア近現代史〔新版〕』有斐閣、2015年所収]および第8章:ベトナム戦争の時代ー1960-1975年[和田春樹ほか著『東アジア近現代通史 上 19世紀から現在まで』岩波書店、2014年所収)
第11回 第10講:世界秩序の再編と北東アジア(第6章:世界秩序の再編と東アジア[上原一慶ほか著『東アジア近現代史〔新版〕』有斐閣、2015年所収]および第9章:経済発展と民主革命ー1975-1990年[和田春樹ほか著『東アジア近現代通史 上 19世紀から現在まで』岩波書店、2014年所収)
第12回 第11講:北東アジアの現在Ⅰ(第2章:朝鮮半島の「現在」ー通底する「朝鮮半島問題」の論理[福原裕二『北東アジアと朝鮮半島研究』国際書院、2015年所収])
第13回 第12講:北東アジアの現在Ⅱ(第10章:共同討議 和解と協力の未来へー1990年以降[和田春樹ほか著『東アジア近現代通史 上 19世紀から現在まで』岩波書店、2014年所収)
第14回 第13講(小結的議論):北東アジア国際関係における「心の問題」を考察する
第15回 コンクルージョン:フリーディスカッション

テキスト

上原一慶ほか著『東アジア近現代史〔新版〕』(有斐閣Sシリーズ)有斐閣、2015年 福原裕二『北東アジア

	と朝鮮半島研究』(北東アジア学創成シリーズ第2巻)国際書院、2015年 和田春樹ほか著『東アジア近現代通史　上　19世紀から現在まで』岩波書店、2014年 和田春樹ほか著『東アジア近現代通史　下　19世紀から現在まで』岩波書店、2014年
参考文献	衛藤瀋吉『近代東アジア国際関係史』東京大学出版会、2004年 川島真・服部龍二編『東アジア国際政治史』名古屋大学出版会、2007年 日本国際政治学会編『日本の国際政治学3地域から見た国際政治』有斐閣、2009年 日本国際政治学会編『日本の国際政治学4歴史の中の国際政治』有斐閣、2009年 国分良成編著『現代東アジア』慶應義塾大学出版会、2009年 菅英輝編『東アジアの歴史摩擦と和解可能性:冷戦後の国際秩序と歴史認識をめぐる諸問題』凱風社、2011年 日中韓3国共同歴史編纂委員会『新しい東アジアの近現代史』上・下、日本評論社、2012年 植木(川勝)千加子ほか編著『北東アジアの「永い平和」:なぜ戦争は回避されたのか』勁草書房、2012年 宇野重昭『北東アジア学への道』国際書院、2012年 川島真[責任編集]『チャイナ・リスク』(シリーズ日本の安全保障5)岩波書店、2015年 木宮正史[責任編集]『朝鮮半島と東アジア』(シリーズ日本の安全保障6)岩波書店、2015年 その他、必要があれば適宜紹介する
評価方法	聴講姿勢と議論に対する貢献度、課題の達成度、学期末レポートを加味して評価する。
その他	※1 ※2

科目分類	専門科目群 専門科目	対象学年	1・2
授業科目	北東アジア専門講義19(国際政治学)	学期	前期授業
担当教員	大芝　亮	選択／必修	選択必修
科目コード	H902219　授業形態　講義	単位数	2

授業の概要

＜テーマ＞北朝鮮の核開発問題・中国の一帯一路構想と日本外交　北東アジアの諸問題のうち、安全保障に関して北朝鮮の核開発問題を、また、政治経済に関して中国の一帯一路構想をとりあげ、検討する。そのうえで、これらの問題に対する日本・韓国・アメリカの政策を議論する。まず、北朝鮮の核開発問題については、北朝鮮のNPT体制に対する政策、6者協議以降の歴史的経緯、経済制裁の効用、アメリカの核疑惑国に対する政策などを検討し、韓国や日本の選択肢について考察する。次に、中国の一帯一路構想については、構想の内容、アジアインフラ投資銀行の活動、日中韓の開発援助政策の比較、アメリカ・欧州の対応などを議論する。

授業の内容

集中講義。4日間を想定しているが、具体的日程・スケジュールは受講希望者と調整する。＜1日目＞〈イントロダクション〉＋〈北朝鮮の核開発問題〉3時限目：イントロダクション　4時限目：北朝鮮とNPT体制　5時限目：6者協議の経緯と北朝鮮の核開発 〈2日目〉〈北朝鮮の核開発問題〉1時限目：北朝鮮に対する経済制裁：経済制裁（一般）についてのこれまでの議論 2時限目：アメリカの核疑惑国・NPT不参加核保有国に対する政策：イランとインド 3時限目：韓国の対北朝鮮政策の視点から考える 4時限目：日本の核政策（核兵器禁止条約と核の傘論）から考える 〈3日目〉〈中国の一帯一路構想〉1時限目：中国の一帯一路構想の概要 2時限目：アジアインフラ投資銀行・アジア開発銀行・世界銀行 3時限目：中国の対外経済援助政策 4時限目：韓国の対外援助政策 〈4日目〉〈中国の一帯一路構想〉＋〈まとめ〉1時限目：日本の対外経済援助政策 2時限目：アメリカ・EUの対応 3時限目：一帯一路構想とグローバルな政治経済体制 4時限目：受講者による発表

テキスト

特定のテキストは使用しない。授業でとりあげるテーマの参考文献・資料はPDF化し、受講者に事前にメール等で配布する。

参考文献

一般的な参考文献として、大芝亮編『日本の外交　第5巻（課題編）』岩波書店、2013年。

評価方法

授業は、各時限において、最初に、講師から説明を行う(45分)。その後、講師より問題を提起するので、それについて、議論を行う(45分)。最終日の最終時限では、各自が、授業に関連するテーマについて、発表を行う。成績評価は、各時限における議論への参加度・貢献度（50%）と、最終時限での発表（50%）などを考慮して、行う。

その他

集中講義の具体的日程については、7月25日から31日、9月（あるいは2月）のなかで、受講希望者と調整して、決める。
※1
※2

科目分類	専門科目群 専門科目	対象学年	1・2
授業科目	北東アジア専門講義20(アメリカ研究)	学期	後期授業
担当教員	佐藤壮	選択／必修	選択必修
科目コード	H902220 授業形態 講義	単位数	2

授業の概要

【講義の概要と目的】 本講義の目的は、受講生がアメリカ合衆国の内政と外交への理解を深め、現代アメリカ社会の諸事象を政治学的アプローチによって分析する視点を獲得することである。本講義では、アメリカ合衆国の政治・外交分野を中心に、国内の経済・社会・文化の諸分野における現象を分析する文献を取り上げて、受講生が歴史的背景や構造的要因を理解することを促す。また、受講生の間でも2017年1月に発足したトランプ政権の内政・外交の東アジア地域への影響に対する関心が寄せられることを加味して文献を選定する。【到達目標】・アメリカの政治・外交分野における論点を析出し、分析的に理解できる。・アメリカが現代の東アジア地域にどのように関与しているのか理解できる。

授業の内容

【講義の進め方】 各回のテーマに関する文献の概要を確認しながら、受講生との議論を中心に進める。また、講義内容や計画に関して、受講生の希望や研究テーマに応じて、適宜変更することがある。

第1回 1 イントロダクション:講義のねらいと講義の進め方のガイダンス
第2回 2 現代アメリカ社会の素描(1)トランプ政権の内政と外交1
第3回 3 現代アメリカ社会の素描(2)トランプ政権の内政と外交2
第4回 4 アメリカニズム
第5回 5 独立宣言と合衆国憲法の世界史的な意義
第6回 6 フロンティアのアメリカ史における意義
第7回 7 人種とエスニシティをめぐる政治(1)南北戦争と奴隷制度の遺産
第8回 8 人種とエスニシティをめぐる政治(2)「新しい移民」の流入と社会統合
第9回 9 人種とエスニシティをめぐる政治(3)マイノリティの地位向上における相克
第10回 10 アメリカにおける社会福祉の展開(1)革新主義からニューディールへ
第11回 11 アメリカにおける社会福祉の展開(2)「偉大な社会」から福祉国家批判へ
第12回 12 アメリカの対外政策とアイデンティティ(1)伝統的孤立主義から対外膨張へ
第13回 13 アメリカの対外政策とアイデンティティ(2)多国間的国際主義をめぐる相克
第14回 14 アメリカ社会の多様化・多極化・分断化(1)文化戦争における価値観論争
第15回 15 アメリカ社会の多様化・多極化・分断化(2)格差と階層

テキスト

特定のテキストを定めず、各回のテーマに応じて文献を選定する。文献の入手方法は、担当教員が指示する。

参考文献

・金成隆一『ルポ トランプ王国?もう一つのアメリカを行く』岩波書店、2017年。・川島正樹編『アメリカニズムと「人種」』名古屋大学出版会、2005年 ・イリジャ・H・グールド(森丈夫監訳)『アメリカ帝国の胎動—ヨーロッパ国際秩序とアメリカ独立』彩流社、2016年。・貴堂嘉之『アメリカ合衆国と中国人移民—歴史のなかの「移民国家」アメリカ』名古屋大学出版会、2012年。・古矢旬『アメリカニズム—「普遍国家」のナショナリズム』東京大学出版会、2002年。・待鳥聡史『アメリカ大統領制の現在?権限の弱さをどう乗り越えるか』NHKブックス、2016年。・渡辺将人『アメリカ政治の壁?利益と理念の狭間で』岩波書店、2016年。・渡辺靖『アメリカン・デモクラシーの逆説』岩波書店、2010年。・Robert D. Putnam, Our Kids: The American Dream in Crisis. Simon & Schuster, 2015.

評価方法

【単位修得要件】必読文献の報告:30% 講義内での議論への参加:30% 学期末レポート:40%

その他

※1
※2

科目分類	専門科目群 専門科目	対象学年	1・2
授業科目	北東アジア専門講義21（韓国文化論）	学期	前期授業
担当教員	松原　孝俊	選択／必修	選択必修
科目コード	H902221　授業形態　講義	単位数	2

授業の概要	講義題目：「なぜ、浜田は『爆買い』と無縁か！？――東アジア外国人観光客誘致政策の比較」2015年に世界が激震したのは、軍事的紛争が続くシリアから命がけでヨーロッパに押し寄せた100万人を超えたシリア難民であった。その一方で、東アジアにおいては、押し寄せる外国人観光客が急増しており、例えば福岡港には2016年に400隻を超えるクルーズ船が着船する予定である。外国人旅行者数2000万人を目標とする日韓両国政府の観光振興政策が存在するものの、浜田を中心とした石見地域は全く無縁で有る。そこで、世界で最先端の研究視点を導入して、（1）日中両国が推進する観光政策やSilicon Valley導入政策（外国人労働者定着など）、中国の一帯一路政策など（2）外国人観光客誘致の日韓比較など（3）「海峡あれど、国境なし――シームレスな日韓海峡圏構築」――地域からの発信など 本講義の主眼は、ボーダーの意識化・可視化とともに、ボーダーを乗り越える「人の移動」に着目して、観光を中心とした「島根版まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定をすることにあり、各種のケーススタディーを取り上げる。
授業の内容	主に講義形式で進める。ただし、主要な論点をめぐっては、ゼミ形式で意見交換形式も採用する。
テキスト	適宜、参考資料を配付する。
参考文献	日本の国境・いかにこの「呪縛」を解くか（北海道大学スラブ研究センタースラブ・ユーラシア叢書8）
評価方法	各回の講義における討論およびレポート。
その他	※1 ※2